

日本原子力学会標準委員会 リスク専門部会 レベル 3PRA 分科会

第 26 回会合議事録

日時：2017 年 7 月 31 日（月）10:00～11:35

場所：関西電力（株）東京支社 12 号会議室

出席者：

委員：高橋主査（京大）、木村幹事（JAEA）、成宮幹事（関電）、石川（CTC）、喜多（東電）、斯波（JANUS）、田原（東芝）、津崎（電中研）、橋本（電中研）、泥谷(NEL)、湊(日立 GE)、向原(TEPSYS)、横山（藤田保健衛生大学）、龍福(VIC)

14 名出席

常時参加者：楠木(INSS)、中村（電中研）、野村（関電）、松本(NESC)、

4 名出席

配布資料：

P8SC26-1：人事について

P8SC26-2：標準文案の修正について

P8SC26-3：標準委員会用語辞典のコメント対応について

P8SC26-4-1：前回講習会資料

P8SC26-4-2：標準委員会本報告資料

P8SC26-4-3：2016 春の年会 企画セッション資料

P8SC26-4-4：講習会計画

P8SC26-5：転載許諾リスト

P8SC26-6：リスク専門部会 5 ヶ年計画

参考資料：

P8SC26-参考 1：第 25 回 レベル 3PRA 分科会議事録（確定済）

P8SC26-参考 2：レベル 3PRA 分科会 名簿

議事：

1. 定足数の確認、配布資料の確認

委員 19 名中 13 名（開始時点）が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが確認された。

2. 人事について (P8SC26-1)

委員の退任(1 名)、および、常時参加者の解除(1 名)について報告された。

主査選挙を実施し、高橋委員が主査に選任された。また、木村委員及び成宮委員が幹事に指名された。(副主査の指名なし)

3. 標準文案の修正について (P8SC26-2)

2017年3月に制定されたレベル3PRA標準案（未発行）について、用語の定義と本文要求事項の不整合があり、用語の定義を修正することが提案された。議論の結果、提案された修正案で用語の定義を修正した上で標準発行することを、リスク専門部会及び標準委員会に諮ることとなった。

4. 標準委員会用語辞典のコメント対応について (P8SC26-3)

標準委員会から依頼があった標準委員会用語辞典のコメント対応について議論した。議論の結果、コメント No.96 については対応方針を修正し回答することとなった。主な議論は以下のとおり。

Q:No.96 の気象サンプリングについては、「一定期間一連の気象データ」を「一定期間内の一連の気象データ」とすると意味合いが変わってくる。現行の表記のまま修正しない方がよいのではないか。

A:一定期間内から、一部を出してくるのではなく、期間全体のデータを指すため、コメント提案に沿った修正はしないこととする。

Q:括弧内で記載している「毎時一年間」という記載を修正して、例えば「一年間の毎時データ」と修正するのはどうか。

A:このままにしておき、次の標準改定で議論するのがよいのではないか。

C:No.96 のコメント対応については、現行表現が正しく修正しない旨を回答することとする。

Q:No.101 の外部被ばく線量換算係数については、先ほど議論しこれから標準を修正する内容を反映させなくてよいか。

A:現在の用語辞典の作業方針としては、2017年11月までに発行された標準を取り込む形となる。L3PRA標準が11月までに発行されるかどうか分からないので、用語辞典のコメント回答としては、このままにしておくことでよい。用語辞典 WG では口頭で補足する。

Q:コメント No.101、103、104 に共通することだが、リスク評価分野ではこの定義で間違いなくとも、本来の意味とか他分野での用語の使われ方を考慮する必要はないのか。同じ用語でも分野により定義が2つされるとかになるのか。

A:用語辞典をどうするか議論のポイントではあるものの、現行の作業方針からすると、レベル3として用語をどう用いるかの回答をすればよい。例えば、外部被ばく線量換算係数が分野ごとに複数定義されることでもかまわない。

C:用語辞典 WG への要望だが、No.101、103、104 の用語の説明文の冒頭に「レベル3PRAでは」とつけてはどうか。その方が用語の使い方が明確になる。他の用語でも一様にそのような表記ができるか分からないが、用語辞典 WG で議論していただきたい。

5. 講習会準備について (P8SC26-4-1～P8SC26-4-4)

レベル **3PRA** 標準講習会の計画について議論した。主な決定事項は以下のとおり。

- ・講習会開催候補日は暫定で **11** 月下旬だが、標準の発行が遅れれば講習会の開催についても後ろ倒しする。
- ・会場は東京とする。
- ・プログラムについては、午前に **1.開会挨拶** (高橋主査)、**2.標準改定の背景と目的** (高橋主査)、**3.標準改定のポイント** (成宮幹事)、**4.放射性物質の大気拡散及び沈着の評価** (津崎委員)、午後に **5.被ばく線量評価** (田原委員)、**6.健康影響及び経済影響評価** (木村幹事)、**7.リスクの定量化** (斯波委員)、**8.質疑応答**、**9.閉会挨拶**等とする。
- ・スライドのフォーマット、前回の講習会資料等については、野村常時参加者から提供する。

6. その他、状況連絡等 (P8SC26-5、P8SC26-6)

- ・転載許諾手続きの状況の紹介があり、許諾手続き先からの回答がない場合や許諾が取れない場合は、速やかに学会事務局から連絡をもらい分科会で対応をとることが確認された。
- ・リスク専門部会の **5** カ年計画について紹介があった。
- ・今回の分科会議事録については、メール審議を行い確定させることとなった。
- ・レベル **2PRA** 標準は、地震レベル **2PRA** への適用範囲拡張作業を行っており、今後レベル **3PRA** 分科会にもレビューして欲しいとの話があり、依頼に合わせて分科会を開き対応することとした。

以上